

2023年度 事業計画（案）

（2023年4月1日から2024年3月31日まで）

特定非営利活動法人 ラムサール・ネットワーク日本

（1）調査研究事業

◎シギ・チドリ部会

- ・ 今年度も、部会独自のプロジェクトは行わず、原則オンライン会議を利用、各地の団体のプロジェクトの支援・連絡のための情報交換を中心の活動とする。同時に、国内外のシギ・チドリ類保全のための会合を含め、現地の訪問も視野に、減少の著しいシギ・チドリ類の保全を目指した交流・調査・CEAPA活動を進める。
- ①岡山県玉島干拓地における生息地保全のための活動への協力。
 - ②吉野川プロジェクトに対するデータ解析を中心とした協力。
 - ③球磨川河口の条約湿地を目指す活動、博多湾における満潮時休息場に関する取り組みなどへの協力。

*予算：15万円

（2）保全再生事業

<1. 保全再生事業>

◎沖縄・開発問題部会

- ①大浦川河口（沖縄県）の鳥獣保護区指定～ラムサール条約登録をめざして
- ②泡瀬干潟（沖縄県）の保全再生に向けた普及啓発を行う
- ③開発による湿地破壊問題を抱える地域の洗い出し（短期計画案より）
- ④各地の開発問題について、意見書ほか必要に応じた支援活動
 - ・ リニア開発残土問題を抱える「美佐野ハナノキ湿地群」（岐阜県御嵩町）の保護の支援
 - ・ 浦添西海岸（沖縄県）の保全を支援する。
 - ・ その他必要に応じて（沖縄県与那国島樽舞湿地など）

*予算：10万円

◎水田部会（田んぼの生物・文化多様性2030プロジェクト）

水田を豊かな湿地生態系として未来に受け継ぎ、昆明・モンリオール生物多様性枠組世界目標の達成に寄与することを目的とする。2023年は世界目標や生物多様性国家戦略との関係性を整理しつつ水田目標2030を具体化してゆく。田んぼ2030プロジェクトでは、プロジェクト参加者へのニュースレターの発行や情報交換のイベントを行うので、ラムネットJ会員への広報を行う。

①国内での活動

- ・ 田んぼ2030プロジェクトの主要な活動メンバーが参加するワークショップを開催し（8月）、実行計画内容を決定する。その結果に基づいた実行計画書を作成する（10月）。ワークショップでは、ポスト2020生物多様性枠組および生物多様性国家戦略について講師による解説を得る。
- ・ 2023年10月に徳島県小松島市で対面・オンライン併用の交流会を50名程度の参加者を得て開催し、実行計画を解説するとともに参加者から実践例の報告を受け、参加者間で共有する。
- ・ 管理技術として水田の水抜き栓の管理の違いによる生きものの生息状況の変化調査を行

う。田んぼ 2030 プロジェクト参加者を中心に実験参加者を募り、9 月をめどに実施のため事前準備を行い、12 月から 2024 年 2 月にかけて実験を実施する。

- ・ 年間 3 回程度のオンラインのミニフォーラム（参加者 30～50 名）による情報発信と意見交換会を実施する。
- ・ 生きものを育む農業を推進する ICEBA の準備会合に参加し、各地自治体とともに開催（2023 年 11 月／佐渡市）する。また、次回開催の企画をまとめる。
- ・ ニュースレター『田んぼだより』を年に 3 回、メールマガジンを年に 6 回程度発行する。
- ・ ウェブサイトの更新を 6 回行なう。メーリングリストによる会員相互の情報交換を行う。
- ・ 水田決議円卓会議準備会（ラムネット J、環境省、農水省、国交省、NGO）を年 6 回程度開催する。
- ・ 水田部会を毎月行う。
- ・ にじゅうまるプロジェクトの後継組織に参加し、運営の会議に出席するとともに J-GBF（2030 生物多様性枠組実現日本会議）等へ寄与する。

②国際的な活動

- ・ フィリピンのイフガオ・台湾の花蓮等、水田を持つ世界農業遺産の管理者とオンラインで、生物の現況、施設や活動内容について情報と意見を交換する。
- ・ 生物多様性条約の S A B S T T A 等国際会議の準備会議に必要な応じてオンラインで参加する。
- ・ ラムサール COP14 で開催したサイドイベントの講演内容・資料を翻訳し、国内に還元する。
- ・ 田んぼ 2030 実行計画書の英訳資料を作成する。

* 予算：363 万円（地球環境基金助成 290 万円／企業協賛金 50 万円）

◎球磨川プロジェクト

①球磨川河口のラムサール条約湿地登録を支援

- ・ 現地団体支援を中心にして引き続き継続する。
- ・ 「次世代のためにがんばる会」の活動を支援。勉強会や体験型学習の講師派遣等。

* 予算：現時点で特になし

◎久米島プロジェクト

- ・ 清流ラムサールサイトのワイズユースを推進すると同時に、かつての棚田の風景を取り戻し、サンゴ礁に影響を及ぼしているサトウキビ畑から流出する赤土の沈殿池としての機能を取り戻す長期展望に基づく計画の 2 年目となる。
- ・ 本年は、地元のキーパーソンを中心として、地元根付いて活動している NPO や漁業組合等と協力して、1. 赤土調査の実施、2. リーフチェック・リーダー養成の実施、3. ホタル館と連携して田んぼの生きもの調査、4. 高校生による聞き書き、5. 水中撮影、6. 成果報告会を 2024 年 3 月までに実施する。

* 予算：200 万円（Patagonia CAF America 助成金 200 万円）

◎渡良瀬遊水地プロジェクト（新規プロジェクト）

- ・ 渡良瀬遊水地の湿地保全とコウノトリ、トキの採餌場の確保と生物多様性向上の取り組み：1. 遊水地の乾燥を防ぐ掘削、2. 観察学習のための除草、3. 農家の協力によるビオトープ作り、4. 井戸を掘って水の供給を確保、5. 冬水田んぼを導入する農家呼びかけ、6. 副読本を制作し小山市内の学校に配布する。

- ・ 米国のコンサルタントの支援と企業協賛による3か年継続プロジェクトで、ラムネットJは、全体の進行管理と米国との窓口を担当し、現地の取り組みは、自治体とNGOを含む、「渡良瀬遊水地の協議会」が母体となって実施する。

*予算：25万USドル／3年間

◎吉野川プロジェクト

- ・ 20年間にわたって大型開発に晒されてきた吉野川河口域の今後の保全およびラムサール登録につなげるプロジェクトとして、3年目である。下記計画を実施するために現地視察を行う。
 - ①吉野川河口域におけるモニタリング調査のデータを市民調査と情報整理し、市民調査と併せて考察を行う。特に吉野川河口は、「東アジア・オーストラリア地域フライウェイパートナーシップにおけるシギ・チドリ類ネットワーク」に日本で最初に参加していることから、吉野川におけるシギ・チドリ類に関して国際的位置づけの考察を試みる。
 - ②2024年3月に終了する、最河口の高速道路モニタリングについて、NEXCO西日本による総合評価に関して、情報収集、考察し、提言を行う。
 - ③吉野川河口の多様な価値を再確認し、多様な視点から考え、未来に引き継ぐ方法を考えるために、地元のとくしま自然観察の会との共催でオンライン講座『吉野川河口みらい講座』を継続して開催する。第4回は清野聡子さん（九州大学）による「海ごみから見つめなおす吉野川河口の川と海のつながりと私たちの暮らし」を開催予定。

*予算：22万円

<2. 政策提言>

◎国内の政策提言

- ・ 環境省生物多様性国家戦略小委員会での議論過程についての意見書（ピートランドの議論について）。
- ・ 2024年提出が予定されるラムサール COP15 に向けた国別報告書のセクション4への働きかけ。
- ・ 国内のラムサールサイトは登録以降、情報更新が行われていないので注目したい。
- ・ 水田決議円卓準備会において、農林水産省・環境省・国土交通省との意見交換や政策提言を行う。
- ・ 食料・農業・農村基本法改訂への意見交換を「生物多様性と農業研究会」とともに行う。

◎国際条約・国際会議における活動

- ・ ラムサール条約第5次戦略計画の具体化の段階での意見・提案
- ・ ラムサール COP15 に向けた国別報告書セクション4の提言（WWNと協議し全ての締約国に働きかけ）
- ・ 生物多様性条約のSABSTTA等国际会議の準備会議に必要な応じてオンラインで参加する。

(3) 普及・啓発事業

◎湿地のグリーンウェイブ (WGW)

①キャンペーン (4月～7月)

- ・ パンフレットの作成・配布:湿地のグリーンウェイブ 2023 キャンペーン参加団体の紹介、およびコラム『世界湿地概況 2021 特別版』を活用しよう』『2030 昆明・モンリオール

生物多様性枠組みと生物多様性国家戦略」 「ラムサール条約 COP14 でのラムサール・ネットワーク日本の活躍」などを盛り込んだA5判フルカラー16 ページ版のパンフレットを作成・配布する。

- ・ 専用ウェブサイトでのイベント紹介：参加団体によるイベント情報や実施報告、フィールドとなっている湿地の紹介などを専用ウェブサイトに掲載する。
- ・ キックオフおよび報告イベントの実施：オンラインによる、湿地のグリーンウェイブ 2023 キックオフミーティング（2023 年 4 月 8 日開催済み）および、湿地のグリーンウェイブ 2023 報告会（9～10 月開催予定）を実施し、記録動画を公開する。

②広報と交流

- ・ キャンペーン参加団体専用のメーリングリストを設置して、情報の共有を図る。
- ・ Facebook の公開グループ「湿地のグリーンウェイブ」をはじめとする SNS の活用を図る。
- ・ ラムサール条約や湿地の保全・賢明な利用について各地で活動する人、関心を持っている人と直接交流する場として、オンラインお茶会をほぼ毎月実施する。

③その他

- ・ WGWチームとして活動報告する新たなメンバーの募集を行いたい。
- ・ 次年度の活動資金確保のために、助成金獲得に努める。

*予算：14 万円

(4) 国際協力事業

◎翻訳プロジェクト

- ・ ラムサール COP14 での決議（7 本）の翻訳作業。すでに 4 月から作業中（6 月末締め切り）。

*環境省からの請負事業：約 92 万円

◎日韓NGO湿地フォーラム

- ・ 毎年 12 月頃に開催している日韓NGO湿地フォーラムは、本年度は韓国主催の年。韓国での現地開催に向けて協議を進めたい。
- ・ 取り上げる議題は韓国側との協議となるので、本年夏頃からKJフォーカ会議で詰めていく。
- ・ ラムネットJとしては、国別報告書の任意項目（セクション4）の報告を働きかけることを提案していきたい。
- ・ 現時点では未定だが、活動のために助成金の獲得をめざしたい。

*予算：現時点で特になし

◎エコユース八代の活動

- ・ 2023 年度も 2022 年度同様に、次世代のためにがんばろ会と協力して、エコユース八代（EYY／高校生）への支援活動を継続する。支援内容は、イベント時の講師派遣と、定期的で開催しているYEWとのオンライン会議を通じたEYYメンバーの自発的活動に向けた支援である。

◎その他の事業

- ・ 日中韓アジア湿地教育ネットワーク（10 月に韓国で会議開催予定）

(5) ネットワーク推進事業

◎ニュースレター

- ・ これまでと同様に、2023年度も4回発行する（4月初旬、7月初旬、10月初旬、2024年1月初旬）。特に今年はこれまでに紹介していないような湿地や団体の記事をなるべく多く掲載し、またそのような地域でのニュースレター配布（オンラインでの閲覧も含む）に取り組み、ラムネットJのネットワークの拡大を図る。
- ・ 2022年度まで、原稿執筆は無料で依頼してきたが、2023年度より原稿料の支払いを行いたい。具体的には大記事（1,600～1,700文字）は5,000円、小・中記事に3,000円を支払う。

*予算：30万円

◎ウェブサイト等

- ・ ウェブサイトで使用している管理ソフトが古くなり、サポートも終了しているので、新しいソフト（フリーウェア）への移行が必要となってきている。この数年の懸案事項であるが、予定通り実施できなかったため、今年は作業時間を確保して取り組む。

◎湿地ニュースの配信

- ・ ほぼ毎日の湿地ニュースの配信を予定する。

◎パンフレット類

①ラムネットJ団体紹介パンフレット（企業向け）

- ・ 企業、行政、他のNGOなどにラムネットJに関するプレゼンテーションを行う際に使用する、組織や活動内容などを紹介したパンフレットを作成する。特に企業協賛の拡大のために活用する。

②ラムネットJ団体紹介リーフレット（個人向け）

- ・ ラムネットJの組織、活動、入会案内などを簡潔に記載した、会員募集、カンパ募集のための小型リーフレットを作成し、会員拡大のために活用する。

*予算：10万円